

参加
無料※定員数に達次第、
受付を終了させていただきます。
あらかじめご了承ください。

噛める人はなぜ 死ぬまで健康で 長生きできるのか？

男性80歳、女性86歳！これは、皆さんよくご存知、日本人の平均寿命です。
では、健康で支障なく日常生活を送ることができる“健康寿命”をご存知でしょうか？
男性70歳、女性73歳です！その差、なんと10～13歳！
噛めない、口から食べていないことが、この差の一要因となっています。
健康長寿者＝噛める人！といっても過言ではありません！
噛める人は、口を使って食べるにより味を感じ、
話すことにより人と交流し喜怒哀楽の感情表現をすることができます。
こうした行動により脳は活性化し元気で活動的な生活を送ることができます。
知識だけではなく、現実的に何から始めたらよいのかを会場でぜひ学んで
“平均寿命⇔健康寿命”を実現させましょう！



日時

2015年6月27日(土)

開場 13:00 / 講演 13:30～16:30 途中入場および退場は可能です。

会場

東京国際フォーラム ホールC

東京都千代田区丸の内3-5-1 TEL:03-5221-9000

演者

河原 英雄・黒岩 恭子・栗原 正紀

座長

岩崎 貢士

後援：キユーピー株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、ライオン歯科材料株式会社

お申込み

FAXもしくはWEBにてお申込み下さい。(学術大会参加者は、お申込み不要です。)

※一度のお申込につきお一人様となります。複数名での参加をご希望の場合には、それぞれお申込ください。当選された方には、6月初旬に案内状をご郵送いたします。

FAX申込 ▶ FAX : 03-6675-9539

フリガナ			
お名前	ご年齢	性別	男性・女性 (○を付けてください)
ご住所	〒□□□-□□□□	ご職業	
お電話番号	E-Mail	@	

※ご記入いただきました個人情報は、適切な情報管理を行います。当事務局からご案内を希望されない方は、☒を入れてください。

☐ 案内を希望しない

WEB申込 ▶ <http://www.ago.ac/33rd/menu/koukaiforum.html>

お問合せ先

日本顎咬合学会学術大会・総会事務局

Tel:03-3265-5640(平日10:00～17:00)

E-mail:gakujutsu@ago.ac

※公開フォーラムの参加登録では、学術大会へのご参加はできません。学術大会に参加ご希望の歯科医療従事者は、学術大会参加受付までお越しください。(学術大会規定に準ずる。)

噛める人はなぜ死ぬまで健康で長生きできるのか？

演者紹介と講演内容

噛めば命の泉湧く



河原英雄
〈歯科河原英雄医院〉

1967年 九州歯科大学卒業
1968年 歯科河原英雄医院開設
2002年 大分県佐伯市に移転

日本顎咬合学会元会長
日本顎咬合学会指導医

共同演者：鈴木宏樹〈篠栗病院勤務〉

「口から食べる」…これほど当たり前のこともありませんが、お年寄りにとっては、この当たり前のことが日々普通にできることにまさる幸せはありません。じつは、多くの要介護高齢者が、「口から食べる」幸せを失っています。要介護高齢者をかかえるご家族にとって、いっしょに食卓を囲んで食事をするのができたら、どんなにいいでしょう。

高齢者の日々の喜びを支えるのは「食べること」と「語らうこと」以外にないといっても過言ではありません。わたしたち歯科医療従事者は、一人でも多くの高齢者が、健康で、若々しく、美しく、心豊かな日々をおくることができる、そのような生活の医療の実現に努力します。

*噛むことは、生きるための栄養の入口です。

*噛むことは、運動能力を活発にします。

*噛むことは、認知症を予防します。

*噛むことは、若返りをもたらします。

さまざまな実例をお示しし、お話をさせていただきます。

食べられる口づくりを可能にする口腔ケア&口腔リハビリの重要性について



黒岩 恭子
〈村田歯科医院〉

1970年 神奈川歯科大学卒業

日本に超高齢社会が到来し、予想以上に口腔の問題で飲食できない高齢者や有病者、病気のために障害を得た上に、認知症が合併している患者さんが増えています。またそのような方々が、残存歯のある場合は勿論のこと、義歯に関する事で、口腔環境の悪化が目立っています。開業歯科医として20数年来、診療が終わってから又、休診日に老人施設、病院、在宅に往診に出かけて、四位一体の歯科のかかわりを他職種の方達と連携しながら行っています。そして、歯科医院にも以上に述べた患者さんたちが来院されるようになりました。このような症状の患者さんたちの口腔内は、粘着性唾液や分泌物(痰・鼻汁等)剥離上皮物等で咽頭も塞がられていて、呼吸が苦しい状況に置かれている場合があります。

状況を改善して再度、楽に話せて飲食できる口腔環境を取り戻す口腔ケア・口腔リハビリを、くるリーナブラシシリーズを使用して、口腔の改善ができるようお伝えしています。そして、重症の患者さんは、歯科治療のみでは飲食を容易にすることができません。おいしく味わい安全に飲食するためには、口腔ケア、口腔リハビリ、食べやすく飲み込みやすい食事形態の調整が必要となります。

以上のアプローチを踏まえて日頃患者さんにかかわっている様子をお聞き下さい。

地域包括ケアを支える“口のリハビリテーション”

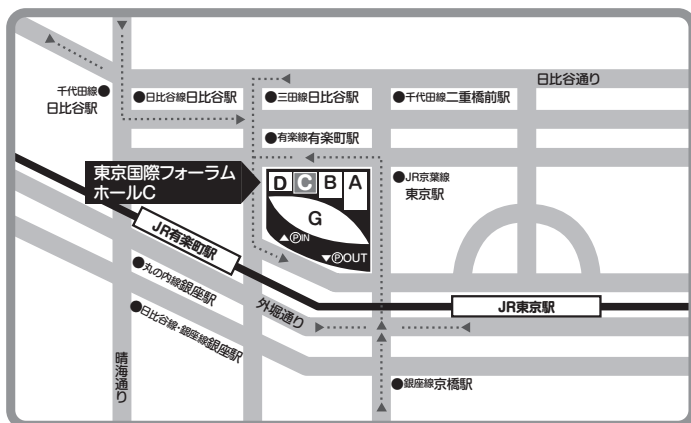


栗原 正紀
〈長崎リハビリテーション病院〉

1978年 長崎大学医学部卒業
1978年 長崎大学附属病院
脳神経外科入局
1990年 十善会病院脳神経外科部長
2001年 近森リハビリテーション病院院長
2008年 一般社団法人是真会
長崎リハビリテーション病院
理事長・院長

2025年には団塊の世代が75歳以上となる。結果、①大量の要介護者が見込まれ、一方では②少子化も重なり、1.8人の就労世代(20歳から64歳)で1人の高齢者を支えなければならなくなる。このことは③財源が大きく不足すると共に、④要介護者を支えるマンパワーも不足することが予測される。この状況を乗り越えるためには、健康寿命や定年を延長し、更に子育てや女性の社会参加を支援するなどにより“支えられる側と支える側のバランス”を少しでも改善すると共に、社会保障制度そのもののあり方を抜本的に改革することが必要となる。このような背景の下で、人口約1万人単位における地域住民の自助・互助(住民力)を基本とした共助(医療や介護)・公助の新たなあり方を示したものが“地域包括ケアシステム”である。

“口のリハビリテーション”とは「どのような障害があっても、最後まで人としての尊厳を守り、「諦めないで口から食べる」ことを大切にすべての活動」であり、具体的には「口腔の3大機能(呼吸・摂食嚥下・構音)を重視して、口腔ケアの徹底・栄養管理・廃用症候群の予防(食事は座位)・徹底したチームアプローチ・救急から在宅まで継続した支援」を実施することで、安心した地域生活を支えていこうというものである。地域包括ケア時代の“安心・安全な地域生活・社会参加”を共に支えていく多職種協働の合言葉として“口のリハビリテーション”活動を提案する。



会場へのアクセス

JR線

有楽町駅より徒歩1分

東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)

地下鉄

有楽町線:有楽町駅とB1F地下コンコースにて連絡

日比谷線:銀座駅/日比谷駅より徒歩5分

千代田線:二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分

丸の内線:銀座駅より徒歩5分

銀座線:銀座駅/京橋駅より徒歩7分

三田線:日比谷駅より徒歩5分